

# 浮岳山昌楽院 深大寺 天台宗別格本山

## 深大寺の由来 ～ 縁結びの寺

深大寺という寺名は、水神の深沙大王に由来しており、奈良時代、天平5年(733)に満功上人が開山したといわれている。満功上人の父は福満という渡来人で、この地の豪族右近長者の美しい娘と恋に落ちたが、娘の両親の反対にあい二人の仲はさかれ、娘は湖の小島に隔離されてしまった。そこで、福満はあの三蔵法師玄奘がインドに赴いた時、流沙河で救われたという故事を思い起こし、深沙大王に祈願したところ大きな霊亀が現れ、彼を娘がかくまわっている島へ連れて行ってくれた。この事を知って娘の両親も二人の仲を許し、そして産まれたのが満功上人である。上人は父福満の深沙大王を祀って欲しいという願いを承知して出家し、唐へわたって法相宗を学んで帰国し、故郷である武蔵野へ帰ってきて深大寺を建立した。時に天平5年(733)聖武天皇の御代である。ついで、父の誓いを果たすべく湖の辺りに深沙大王を祀ったという。これが、『深大寺縁起』の伝えるところである。この恋物語により、深大寺は縁結びの寺としても有名である。参考『深大寺物語』

## その後 天台宗に改められた

深大寺が開かれて100年以上の後、清和天皇の御代、武蔵国の国司蔵宗の乱が起こった。この乱を鎮めるため、朝廷から天台宗の高僧惠亮和尚が派遣された。和尚はこの深大寺を道場とし、修法を行い、その降伏祈願により乱は治まった。その功により近隣七ヶ村を寺領として、深大寺に賜り天台宗に改められた。江戸時代家康から50石を寄進され、幕末まで継承された。現在は、別格本山として多くの末寺を擁している。参考『深大寺』

## 「深大寺そば」を有名にしたのは

江戸時代、深大寺の北の台地は米の生産に向かないため、小作人はそばを作り、米の代わりにそば粉を寺に納め、寺ではそばを打って来客をもてなしたのが、深大寺そばの始まりと伝えられている。深大寺そばを有名にしたのは、元禄年間、深大寺の総本山であった上野寛永寺の公辨法親王(輪王寺門跡 東叡山門主)に献上したところ、親王は大いに賞賛なさり將軍家や全国の諸大名に広く推奨された。そのため、深大寺そばの名が高まり、多くの家から「深大寺そば」の使者が立つほどになった。

## おすすめの散策コース

- 山門 ①
- ↓
- 鐘楼 ②
- ↓
- 常香楼 ③
- ↓
- ムクロジの木 ④
- ↓
- 本堂 ⑤
- ↓
- なんじゃもんじゃの木 ⑥
- ↓
- 中村草田男碑 ⑦
- ↓
- 高浜虚子像 ⑧
- ↓
- 参詣道標 ⑨
- ↓
- 元三大師堂 ⑩
- ↓
- 銅造釈迦如来倚像(国宝) 梵鐘 ⑪
- ↓
- 延命観音 ⑫
- ↓
- 深沙大王堂 ⑬
- ↓
- そば守観音 ⑭

## 深大寺の主な見所 紹介



① **山門** 慶応元年(1865)の大火から免れた。300年程前の元禄8年(1695)の普請で境内最古の建物である。



② **鐘楼** 慶応の大火後、明治3年(1870)ここに再建された。梵鐘は平成13年鑄造されたものである。今も、毎日朝・昼・夕の3回撞かれている。



③ **常香楼** 慶応の大火の際に山門と共に火災から免れた。北側に大火の跡を残している。天保4年(1833)の建立で山門について古い建物である。



④ **ムクロジの木** 無患樹あるいは無患子と書く。実は追い羽根の玉となる。非常に堅く鬼にぶつければ鬼と厄も一緒に退散するという。果汁は石けんの代用になり、湧水の地に多い。



⑤ **本堂** 慶応の大火後、大正時代の再建である。本尊は、宝冠阿弥陀如来像で、天台宗の常行三昧堂の本尊であったという。



⑥ **なんじゃもんじゃの木** 和名を「ひとつばたご」という。4月末～5月始めに白い清楚な花が咲き誇り、雪を被ったように見える。毎年この時期、東京消防庁音楽隊による「なんじゃもんじゃコンサート」が開かれる。



⑨ **参詣道標** 元禄16年(1703年)造立の道標を文政3年(1820年)に再建したもの。元三大師に参詣に来る人の道しるべとして建てられた。仙川の甲州街道に建てられていたが、『昭和39年東京オリンピック開催』に伴う道路拡張でここへ移された。



⑩ **元三大師堂** 深大寺における厄除け信仰の中心として、慶応の大火後、翌々年の慶応3年(1867)にいち早く再建された。



⑩ **元三大師像(慈恵大師像)** 延暦寺18代の座主で天台宗の中興の祖である。正月3日に亡くなったので「元三大師」という。疫病厄除、悪魔調伏の力を持つと信じられ、多くの彫像が作られている。深大寺の像は、鎌倉末から南北朝期の作という。



⑪ **銅造釈迦如来倚像(国宝)** 平成29年3月に国宝指定。東日本随一の白鳳仏であり、7世紀ごろに奈良で造られたという。ご本尊として祀る釈迦堂は平成26年(2014)に大幅リニューアルされ、斬新な展示方法により仏のやさしさと美しさを際立たせている。



⑪ **梵鐘** 国の重要文化財。鑄造は北朝年号の永和2年(1376)といわれる。都内で3番目に古い鐘であるが、平成になって「ひび」が見つかり、鐘楼から降ろされて釈迦堂の左奥に安置されている。



⑬ **深沙大王堂** 深沙大王は、江戸時代まで深大寺の総鎮守で、このお堂は元三大師堂と同じく参詣の人が絶えなかった。明治の神仏分離令で破却され、昭和43年に再建された。深沙大王像は、秘仏で住職が在任中に一度拝める程度であるという。



⑭ **そば守観音** 昭和38年造立され、日本に1体しかないという。毎年秋の「そばまつり」には、境内で蕎麦を打ってお供えする蕎麦献供式が行われる。